1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 11 月 25 日発行　SSKU　増刊通巻第 6605 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL:03-3598-3337

シャケZoくん

# SSKU わくわくかん リボン便り

http://www.wakuwakukan.net/

2019 年 12 月号 No.225

**？？なぜリボン？？**

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

## 東京都福祉研修　前期／後期に 21 名

# 前期の職員のレポートも出そろう

2019 年度の東京都精神保健福祉研修に、NPO 法人わくわくかんの常勤職員が 17 講座に前期 10 名、後期 11 名が参加することで進行中です。その講座の内容と参加は図表の通りですが、前期の職員のレポートも出そろった。後期には 300 人規模の講座が①ギャンブル依存症の現状を理解し支援につなぐ、②感情調節困難の理解と支援、③統合失調症のテーマが予定されている。前期レポートからその率直な〈感想〉に迫ってみた。

| 東京都福祉研修日程表（2019 年度前期／後期） | |
|---|---|
| 6 月 03, 07 日 | 精神保健福祉基礎研修 |
| 6 月 11 日 | 高齢期精神疾患の理解を深めるために |
| 6 月 14 日 | 発達障害者の就労支援 |
| 6 月 28 日 | アディクションの理解と支援 |
| 7 月 23 日 | アウトリーチ |
| 7 月 26 日 | 地域包括ケアシステムと障害者総合支援法 |
| 7 月 30 日 | 発達障害者への認知行動療法を学ぶ |
| 8 月 08 日 | 自殺を防ぐメンタルケア |
| 11 月 05 日 | アディクション支援研修 |
| 11 月 15 日 | 統合失調症のある方の社会参加を地域で支える |
| 11 月 28 日 | ギャンブル依存症の現状を理解し支援につなぐ |
| 1 月 10 日 | 地域支援に活かす認知行動療法 |
| 1 月 15 日 | 感情調節困難の理解と支援 |
| 1 月 17 日 | ひきこもりの状態にある方への支援 |
| 2 月 04 日 | 認知行動療法のグリーフサポートを学ぶ |
| 2 月 25 日 | 地域援助技術研修・リーダー |

### ＜研修の感想＞

### アウトリーチ支援

・都のアウトリーチ支援の取り組みや事例報告等の話をいくつか聞き、各地域の保健師さんと都のアウトリーチ担当者の粘り強い取り組みや徹底したリカバリー指向の支援に頭が下がる思いです。
・流れとしては、地域の保健師さんが関わる地域の支援の中で、専門的な介入が必要だと思ったケースを都のアウトリーチ支援依頼をすることで、開始される。地域の事業所としては、何か手伝うことはできないかとも思うが、この段階においてはやはり動くことは難しく、保健師さんと精神保健福祉センターの役割なのであろう。都の取り組みとしての中部保健センターの短期入所を利用したアウトリーチ好事例を紹介していた。アウトリーチであらかじめ関わっていた方だけでなく、区の保健師さんを通じて相談し、見学、主治医の意見書等の書類審査が通っている方も利用できる様だが、実際の利用頻度は低いように思われる。施設を十分に活かし、事前相談なしでも緊急時にもすぐに対応していただけるのであればなお、都民は使いやすいし、地域の支援者にとっても心強い場所になるのではないかと思った。　（S）

### 発達障害者の就労支援

### 発達障害の人の課題

子どものとき→学校の教育と親の無理解から孤立、いじめ、引きこもりを引き起こす。大人になると→コミュニケーションの問題が原因で職場でのいじめ、2 次障害としてのうつ症状、ひきこもり、ホームレス状態になる人が出てくる。
子どものころからの周囲の理解のなさが原因で辛い状況に追い込まれて、大人になっても子供時代のサポートの無さから同様にいじめやひきこもり状態に戻ってしまう。
バックボーンに発達障害があるうつ病は精神疾患のうつ病とは根本的な要因が異なるため、通常のリワーク支援では復職は難しいと感じた。

### 発達障害者を社会人へつなげていくために

研修資料ではライフスキルについて、日々、一週間、一ヶ月、一年間、その他と具体的な項目が記載されていて参考になった。ソーシャルスキルやソフトスキルにおいては、苦手なスキルを無理にできるようにするのではなく、苦手なスキルは何かを把握して、それをクリアするためにはどんな手段があるか、誰に頼ればよいかを一緒に考えればよいということが勉強になった。人に頼るスキルも重要だと気づいた。
できることはのばす。できないことはできない→手段を考えたり、人に頼ればよい。就労支援を行う上で、基本になる考え方を学ぶことができた。　（K）

**＜わくわくかん 12 月予定表＞**

- ✧ 12 月 07～08 日　第 37 回北区障害者作品展　10:00～
- ✧ 12 月 14 日（土）はたらっくす 16:00～ トライ・ザ・ブルースカイ 17:00～（自立訓練室）
- ✧ 12 月 14 日（土）共同連マラソントーク　開場 13:30～　開演 14:00～　赤羽会館 4F 小ホール
- ✧ 12 月 23 日（月）全体忘年会　18:00～　赤羽会館 4F 小ホール

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 11 月 25 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6605 号

# わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

## 牡蠣の炊き込みご飯

牡蠣の炊き込みご飯

【材料】4 人分

| | |
|---|---|
| 米 | 2 合 |
| 牡蠣 | 200 g |
| 三つ葉 | 少々 |
| 細ネギ | 少々 |
| 出汁 | 150m l |
| 酒 | 50m l |
| 薄口しょうゆ | 大さじ 3 |

【作り方】

① 牡蠣は軽く水で洗い水切りをしておく。
② 鍋に出汁、酒、調味料を加え、一煮立ちさせてから牡蠣を加え数分煮る。
③ 牡蠣がふっくらしてきたら鍋ごと氷水で冷やす。
④ 牡蠣は取り出し、煮汁を炊飯器に加え、規定量まで水を足し炊飯器で炊く。
⑤ 炊き上がったら牡蠣と三つ葉を加え混ぜ合わせ少し蒸らす。
⑥ 器に盛り、飾りの三つ葉と細ネギを散らして完成。

ミルキーな身が特徴の「牡蠣」は皆さんもご存じの通り、「岩牡蠣」と「真牡蠣」の 2 種あります。岩牡蠣の旬は夏。そして冬に美味しくなるのは真牡蠣です。牡蠣は体にとって必要不可欠な栄養が大変豊富です。貧血や疲労回復に必要なビタミンや鉄。免疫力を高める亜鉛、元気の源グリコーゲン。食べる時にはレモンを一緒に食べるとビタミンＣが鉄の吸収力を高めてくれます。また疲れている時はトマトを一緒に食べればリコピンパワーで疲労回復力がアップします。今年の冬はカキフライに牡蠣鍋、牡蠣のグラタンといろんな調理法で牡蠣をたべてみませんか？

## 年賀状は一回でもご利用いただいた方に
## 施設に入所した方や亡くなった人も確認

今年も、いよいよ残り一ヶ月を残すところになりました。配食事サービスでも年賀状の宛名を作成する時期になりました。

毎年、年賀状は今年になり一回でもお弁当をご利用いただいた方にはお送りするようにしています。

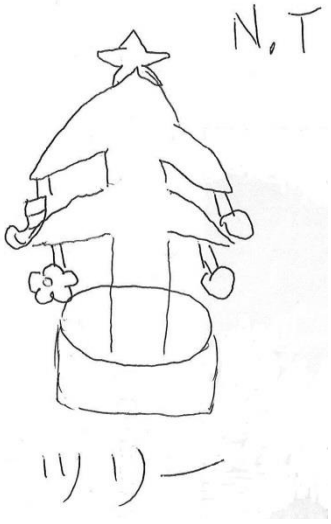
新年のあいさつと安否確認もかねて行っています。励みになれば、なによりです。

今年も、たくさんの新規利用の方々がいらっしゃいました。ありがたいことです。逆に、今年で終了になった方もいらっしゃいます。

今年、終了になった方の中には施設に入所した方や亡くなられた方もいらっしゃいます。

毎年、こうしたお客様の様々な状況に思いを巡らせながら年賀状の住所録を作ります。

新規利用の方は、ケアマネさんからのご紹介とチラシとご家族がインターネットを見てとお客様からのクチコミという順番です。




いろんなお弁当屋さんがある中でもわくわく配食サービスを選んでいただいたことに感謝の思いとともにより良いお弁当を安心して受け取っていただける様に取り組んでいきたいと思います。

年末に向けて一段と寒さがきつくなりますが、みなさまお体に気を付けてお過ごしください。

今年もご愛顧ありがとうございました。

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 11 月 25 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6605 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

# 通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

## 外出～後楽園

11 月 1 日（金）、外出のプログラムだったので、後楽園に行ってきました。本当は10月25日(金)に行う予定だったのですが、大雨のため延期になりました。

スタッフさん 2 名と現地合流した 2 名を合わせて計 7 名で行ってきました。

最初はお店がたくさん並んでいる所で各自昼食をとることになりました。僕はぎんだこのお店で買って、店を出てすぐのテーブルのある座る所で食べました。2 セット注文してたこやきを計 12 個購入。1 個スタッフ H さんにあげたので 11 個も食べました。

その後写真を撮影したり自由行動したりして過ごしました。

最後に乗りたい人とそうでない人に分かれて乗りたい組は観覧車に乗ることにしました。僕はもちろん乗りました。850 円で乗車券を買って乗りました。空の旅は新鮮でした。全体的に楽しい一日でした。(M.T)

## やっと帰ってきたKさん。

少し前から響のスタッフ K さんが帰って来た。フルではないけど、少しずつ勤務に戻っている。初めは K さんが居なくなってどうするんだろうと思ったけど、残りのスタッフが力を合わせ、なんだかんだと乗り越えているのを見て安心した。でもやっぱり K さんの抜けた後は大きくて、問題なく進んでいたのが凄いなって思った。しかし K さんは子どもが 3 人いるとは思えないほどキレイな人だなって思う。　　（K T）

## 見学～プリントリード

・10 月 9 日、B 型作業所プリントリードの見学に行ってきました。時間の都合で、早目に昼食を取り、12 時半頃センターを出発。板橋から浮間舟渡まで埼京線に乗り、そこから河川敷の工場街までちょいとばかり歩いたところで到着。中には印刷機械と各種の紙がたくさん置いてありました。

仕事は DM の製作、封入、発送、その他印刷もろもろ大量の紙を 3 つ折りにするための専用の機械もあり、作業所と言うより本格的な工場の風格を漂わせていました。

B 型としては、工賃が高めで、卒業（就職）を推奨していることから、私自身は非常に興味が湧きました。
(S.M)

・10 月 9 日（水）ひびきのプログラムで「プリント・リード」さん（就労継続支援 B 型）に見学に行ってきました！

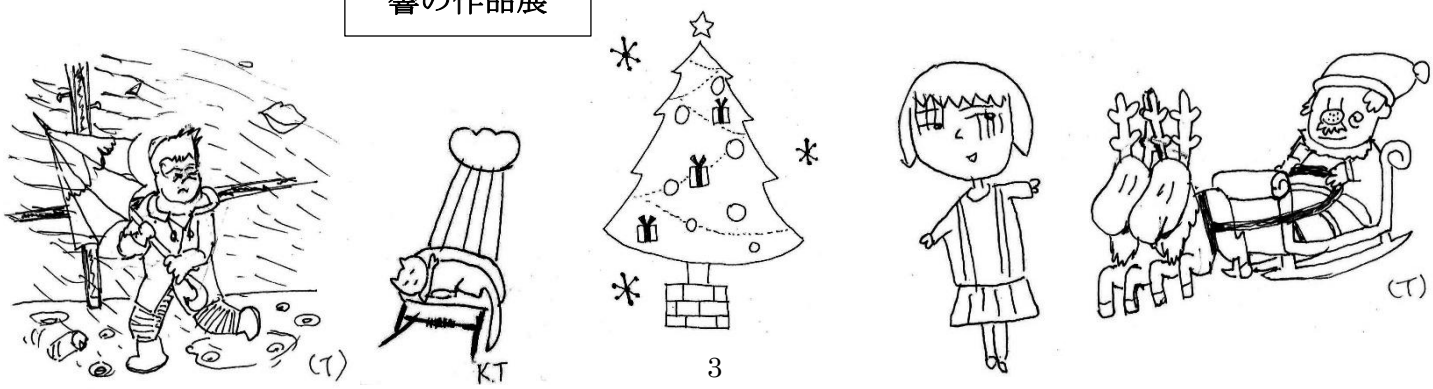
所長さんから工賃と年金、生活保護の方が働いた力で自分らしい生活ができるように最低月額 50,000 円を目指すことなど熱い説明を受け、所内を見学させていただきました。自分の無理ない労働時間や、今後の進路などを話しあう良いきっかけとなりました。なお、興味のある方、パンフレットはひびきにあります。

## 北精連カラオケ大会

北精連が主催するカラオケ大会があり私はそれに参加しました。緊張してる人が多数みられました。歌合戦という事で、私は蹴落とすぐらいの気持ちで臨みました。私は辛島美登里さんの「サイレントイブ」を歌いました。

私は北精連のカラオケ大会に向けてひびきが終わってから毎日のようにカラオケの練習を 1 日 5 時間くらい練習しました。その甲斐があってか、わくわくかんは団体として第二位になりました。練習してよかったとすがすがしい気持ちになりました。ただ、優勝を目指していたのでくやしい気持ちもありました。とても楽しめて良かったです。　　(K.F)

## 響の作品展



1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可 （毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 11 月 25 日発行 SSKU 増刊通巻第 6605 号

就労移行支援事業

# リボーンプロジェクト

〒114-0032 東京都北区中十条 1－2－18
北区障害者福祉センター４Ｆ Tel：03-5963-6888

# 消防訓練（避難訓練）に参加

## 台風直後で真剣な表情

今年も障害者福祉センターにて消防訓練（避難訓練）が実施され、リボーンプロジェクト及びボランティア響会の利用者、職員が参加しました。
訓練が始まるまでの間、リボーンでは災害対策について自由に話し合いました。先月の台風による大雨の際には、皆さん非常用の食料や備蓄品等を用意されていたようです。北区の防災地図も全員で改めて確認しました。

いよいよ訓練が始まり、緊急地震速報が聞こえるとすぐ机の下に隠れて頭を守りました。その後、すぐそばの公園へ避難。全員落ち着いて、スムーズに避難することができました。続いては消火器を使った消火訓練です。消火器を使ったことがあるという方にも、いざという時に備えて参加していただきました。最後に、建物内の消火栓の訓練も行われました。毎年大きな自然災害が発生していますので、防災意識は常に持っていなければいけないと改めて感じた１日でした。

### ＜訓練に参加した感想＞

・公園はすぐだったので、思ったより早く避難できた。消火器もうまく使えた。消火器の使い方を教わるのは初めてだったので学習できてよかった。消火栓もいざの時に使えるので助かる。
・消火器、消火ホースの取扱いは久々だった。
・わくわくかんでは初めて参加する訓練でした。消火器を使うのは久しぶりでしたが、落ちつけて行動できたのでよかったです。消火栓の使い方は初めて知りました。
・今年も参加し、消火器の使い方を再確認でき、良かったです。
・初めての参加となりましたが、比較的落ち着いて行動できたかなと思います。実際に災害が起きたときも、あわてず行動したいです。

# 就労移行支援事業所を振り返って

## 「あかばね就労開拓校」からは 12 年余の歴史

わくわくかんの就労移行支援事業所は 2007 年６月に事業を開始しました。今から 12 年と半年前の事です。場所も現在の中十条にある障害者福祉センター内ではなく、赤羽の LaLa ガーデンにあるビルの一室で名称も、『あかばね就労開拓校』と呼んでいました。
現在のプログラムの基本的な部分はこの頃に確立され、現在までに多くの実績と経験がプログラムに反映されてきました。
けれども、ゼロからの出発でしたので色々と苦労もありました。
機材も現在ほど充実はしておらず、パソコンは寄贈していただいたものを使っていました。
また、ホームヘルパー2 級（現：介護初任者研修）の資格が取れるヘルパー講座を開催しており、多くの方が資格を取得して就職していきました。その頃は、わくわくかんにもヘルパーステーションがあり、資格を取得した方の中には、わくわくかんのヘルパーステーションに入職された方もいました。さらに、ヘルパー先も精神の方が多く、精神疾患に理解のある当事者の方で安心できるとのご意見も頂いていました。東日本大震災の時も、翌日から余震がある中で開所していました。利用の方も鉄道が使えない中、徒歩やバスを乗り継いで開拓校へ通っていました。
そして、年月が経ち 2011 年 4 月に現在のリボーンプロジェクトが中十条の障害者福祉センターで事業を開始しました。この頃は、あかばね就労開拓校とリボーンプロジェクトが併設されていました。その後、あかばね就労開拓校とリボーンプロジェクトは統合され、現在のリボーンプロジェクトの形になりました。また、就労移行支援事業を定めた法律も、障害者自立支援法から 2013 年には障害者総合支援法へと変わり時代は流れてきました。
ここで、あかばね就労開拓校は北区の初の就労移行支援事業所であり、リボーンプロジェクトに統合して継続して事業を行ってきました。さらに、わくわくかんでは、就労支援センターや相談事業所、そして就労定着支援事業所などが設置されており、相互に連携を取りながら運営をしています。リボーンプロジェクトはこれまでに蓄積したノウハウなど、数値データには表れにくいところの強みがあり、これからも就職したい方への支援を充実させていきます。

（Y.H）

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 11 月 25 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6605 号

## 第４回わくわくかん家族懇談会のお知らせ

今年の家族懇談会は偶数月に開催しています。

開催日時：２０１９年１２月１７日（火）16:00～
場　　所：障害者福祉センター４階　自立訓練室
内　　容：親なき後　「成年後見制度」
個人面談：※（事前にお申し込みを）17:00～
連 絡 先：【TEL】03－5963－6888【FAX】03－3906－9997

---

### 家族懇談会・八木眞佐彦先生の依存症のお話

## 生きのびるためのアディクション

10 月 29 日、わくわくかん家族懇談会では、周愛荒川メンタルクリニックの八木眞佐彦先生をお迎えして「依存症」をテーマとしてお話をしていただきました。

依存症と聞き、どんなイメージを浮かべるでしょう。「うちの子もスマホ依存症かも」または、「依存症は弱い人がなりやすいのかしら」などと考えるのではないでしょうか。

八木先生はこうおっしゃいました。「何かへの依存が始まったとき、それは心的苦痛の SOS である」と。特に最近では若者のネット依存が問題視されており、「ゲーム脳」という言葉もあるくらいですが、ゲームで傷つくよりも、虐待や孤独で脳に傷がつくほうがよほど重大だとおっしゃり、八木先生はゲーム脳という言葉を否定しました。

現在の子供たちはインターネットの中に「信頼できる人間関係」を見出し、つらい現実を乗り越えようとしており、それはすなわち、「助けて」「つらい」と口に出せる信頼できる大人が現実社会にいない、ということになります。

日本は毎日一人の子供が自殺で命を落としているそうです。未遂を含むと膨大の人数になります。彼らの中には唯一、本音を語りあえる友人がスマホの中に存在している、子供もいるかもしれません。その友人であるスマホを「ゲーム脳」「スマホ依存」と決めつけ取り上げてしまったとき、悲劇が起きていることも少なくないのかもしれません。

**依存の始まりは心的苦悩のＳＯＳ！**

自分の孤独や不安を埋めるために、夢中になれる何かを見つけ出し、生き抜く力や勇気を依存先に見つけ出す。これらを「生き延びるための依存症」と呼ぶそうです。

八木先生の依存症の【オススメ参考文献】は私たちの常識を変えるものばかりです。

「依存症は障害の中で一番差別されている」との八木先生の言葉が忘れられません。　　(K)

**八木先生の【おすすめ参考文献】**

| | |
|---|---|
| 子は親を救うために「心の病」になる | ちくま文庫 |
| 子供の脳を傷つける親たち | NHK 出版新書 |
| 依存症の真相 | ヴォイス社 |
| 本当の依存症の話をしよう | 星和書店 |
| アルコール・薬物・ギャンブル家族の 7 つの対処方法 | A.H.K |
| 自傷・自殺のことがわかる本 | 講談社 |
| 18 歳からの発達障害 | 大和出版 |
| 夫がアスペルガーと思ったときに妻が読む本 | 河出書房 |
| 発達障害は最強の武器である | SB 選書 |
| DVD「依存症からの回復」 | NHK 厚生文化事業団 |

---

### １１月はたらっくす報告

11 月のはたらっくすは９日 16～18 時にわくわくかんで、４ 名参加で行われました。それぞれ自分の抱えている問題を出して活発に話し合いました。人は皆、その人なりの深い問題を抱えている、と感じました。それを吐き出せる場は重要だと思います。

次回は 12 月 14 日（土）16～18 時にわくわくかんで行います。あなたのご参加をお待ちしています。

（M）

1998年10月9日　第三種郵便物認可　（毎月3回8の日発行）
2019年11月25日発行　SSKU　増刊通巻第6605号

# 知的障がい者840人が一般就労へ

## エル・チャレンジが20周年の集い

大阪知的障害雇用促進建物サービス事業協同組合（愛称：エル・チャレンジ）の設立20周年のセミナーが１１月２日、午後から大阪本町のシティプラザ大阪で開かれ、冨田一幸代表理事が２０年間の活動報告を行ないました。

設立当時は、長引く不況のもと雇用状況が厳しさを増すなか、障がいのある人の働く場を確保すること、なかでも知的障がいのある人の雇用に関しては理解されることが少なかった。【働く意欲は、働くことから】を掲げ、「施設なき授産」のエル・チャレンジ式就労訓練の独自の仕組みをつくりあげてきた。

大阪府は様々な事業を見つめなおす取り組みを進め、府有施設の清掃業務を活用した就労支援システムを構築しました。のちに「行政の福祉化」として施策化され定着しましたが、このシステムによりエル・チャレンジから、20年間で８４０人の障がいのある人が一般就労を果たすことになった。業種別では、３５％をビルメンが占める。全体の定着率は７０％で、過去５年を見ると９０．２％と高い。

それらのメンバーをつなぐ【なかまの会】の活動は、「初めてもらった給料で家族を招待しよう」の甲子園阪神応援イベントや新春ボーリング大会、天神祭りの神輿担ぎのほか、障がい者の＜働き続ける＞を応援する互助会として続けられている。

### 日本初の「総合評価入札」制度で他県に先行

2003年には、日本初の障がい者雇用の「総合評価一般競争入札」を実現した。『産経』が「障害者や母子家庭の雇用後押し」とし「価格」と「技術」＋「公共性」として評価した。他の府県に先行する制度で100人以上の障がいのある人や150人以上の就職困難者が府有施設内で清掃業務の担い手として働き続けている。

ペナルティの法定雇用率だけでなくインセンティブの共生雇用率を組み合せると大規模施設における総合評価入札参加企業の平均雇用率は年々増加している。設立20周年を迎える今年には“大阪府障害者等の雇用の促進等と就労の支援に関する（ハートフル）条例”に定める「障害者等の職場環境整備等支援組織」としても認定され、今後この波を市町村へ広げていくことを強調した。　(k)

## 愛知で人間の尊厳守る「地域共同基金」

# 「ソーネ基金」が設立、稲葉氏が講演

11 月 2 日、地域共同基金「ソーネ基金」設立の会＆ソーネ居酒屋が、わっぱの会のソーネおおぞねで開催されました。

共同代表ののわみ相談所の三輪憲功さんから、人間の尊厳を守るための基金を設立したいという主旨の主催あいさつがありました。

その後同じく共同連代表のわっぱの会の齋藤縣三さんより、お金を通して人と人とのつながりをつくり、支え合い、孤立させない人間関係がこの時代に強く求められており、ソーネ基金を広く社会に訴えていきたいとのあいさつがあり、地域共同基金の仕組みと 2020 年内に本格的貸付を目指した今後のスケジュールの説明が行われました。

記念講演としてつくろい東京ファンドの稲葉剛氏より「セーフティネットを修繕しよう」というテーマで 1994 年からの東京・新宿を中心とした路上生活者支援活動、そして自立生活サポートセンター・もやいの設立、そして 2014 年の一般社団法人つくろい東京ファンドの設立までの経緯を話していただきました。

稲葉氏は記念講演の中で、人間と人間との関係性について助けてくれる人がいない、グチを言える人がいない状況、つまりＳＯＳを出す力が奪われている現実を訴えました。

経済的な貧困と人間関係の貧困の中で住まいから広げ、仕事や居場所づくりから分断を超えた市民の連帯をつくり、社会に対して発信していきたいと強く訴え、その思いを持って 1 人 1 泊 3,000 円・原則 4 泊分までを支援する 8 団体で「東京アンブレラ基金」を設立し、各団体の運営が厳しいのでクラウドファンディングで 600 万円を集めたことを報告されました。

設立集会の後、セカンドハーベストから持ち寄った賞味期限前の食品とカンパのアルコールで二品 500 円均一（売り上げは全て基金になります）のソーネ居酒屋を盛大に行ない、会を終えました。**（ソーネ基金　三田明外）**

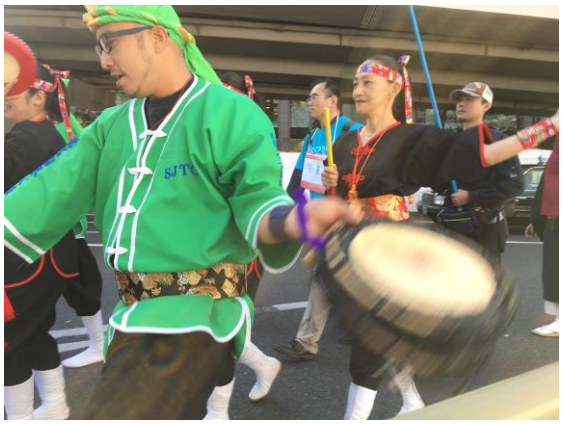
1998年10月9日第三種郵便物認可　　（毎月3回8の日発行）
2019年11月25日発行　　SSKU　　増刊通巻第6605号

# 10回目のリカバリーパレード

## 依存症からの回復を喜び歌とパレード

11月10日、晴れやかな気候の中「リカバリーパレード　回復の祭典」は行われた。千野恵子リカバリーパレード事務局長は、NPO法人わくわくかんでもミーティングなどの活動を行っている方です。

約100人が参加する隊列は、新宿中央公園から始まり、新宿駅周辺を回る。ドラム、しゃぼん玉、沖縄のエイサー、お坊さんの参加、街宣車が流す音楽。隊列に参加していると、通行人の視線がパレードに向いていることが実感できる。シュプレヒコールは、依存症者も社会の仲間、仲間がいれば回復できる、あはでいえた人な訴はる。依存症は誰もがかかり、回復を信じ応援する社会を！と。リカバリーパレードは、パレード参加者を通じて回復を見てもらうことから、社会の人たちが、回復は可能であり、現実であることを知るようになり、これまでよりずっと多くの人たちが回復を実現できる社会になっていくことを目指している。



パレードの歴史として、1回目のパレードは土砂降りの雨の中で行われ、その後も何度も、雨の中のパレードが続いた。参加者が着ているTシャツの水色は、病気は暗いけど明るい空色に染めよう、という意味がある。強い雨の中の逆境でも叫び続け、社会の無理解に抵抗し、依存症の理解を訴えてきた。ようやくの晴れであった今回の10回目のパレードは、社会の無理解が理解へと、変わってきていることを象徴しているように私は感じた。　(S.F)

---

## “何”を裁くべきか？—1.11「やまゆり園事件」で集会

１月８日「津久井やまゆり園事件」の裁判がはじまります。この事件を「考え続ける会」では、横浜のかながわ県民センターで１月11日（土）13時30分から「“何”を裁くべきか？」のテーマで集会を開きます。

裁判は施設職員であった植松被告を裁くものですが、大型施設を維持しつづける日本社会のあり方も、またそれを黙認した日本の市民社会をも鋭く問うています。

シンポジストに河東田博さん（浦和大学特任教授）・平野泰史さん（津久井やまゆり園家族会元会員）・千田好夫さん（障害児を普通学校へ・全国連絡会）・高岡健さん（相模原殺傷事件と戦争・優生思想・精神医学の著者）です。

コーディネーターは堀利和さん（NPO法人共同連顧問、「季刊福祉労働」編集長）です。

---

**現場からの報告（28）**

## ＜頼ること＞の勇気

先日わくわくかんへの通勤途中に、70代くらいの見知らぬ女性から話しかけられました。私が立ち止まるとその方は「背中のボタンが届かないので留めてくださいますか」と後ろを向かれました。私はわかりましたと言い、ボタンを2つ留めたことを伝えると「一人暮らしなので頼める人がいなかった。これから人と会うので、助かりました」と笑顔で駅の方向へ歩いていかれました。私は「役に立てて良かった」と嬉しい気持ちになった一方で、自分も同じように初対面の人に頼ることができるだろうかと想像したところ、急いでいるに違いないとか、こんなことお願いして良いのかとか、断わられるのではないか、などという思いで頭がいっぱいになり、話しかけることすらできない自分がいました。誰かに頼るということは、頼られる側よりもよっぽど大変で勇気がいるのです。ふと、わくわくかんに来て下さる方も不安や緊張を乗り越えて相談をしてくださっているんだ、ということを考えたり実感しながら、わくわくかんに到着したのでした。　(K.Y)

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可 （毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 11 月 25 日発行 SSKU 増刊通巻第 6605 号

# リボーンの利用終了を迎えて

投稿

私は当初、障害者に対する福祉サービスには、固定概念もありとても懐疑的でした。「個人情報は、しっかり厳守されるのか？」「障害者とされる方々が集まる場所でも私は果たして訓練できるのか？」など不安を抱きながらも、リボーンに足を運んでおりました。

ですが、スタッフの方々は、思ったことや不安なことなどの相談に真摯に応えてくださったり、いろいろな配慮をしてくださったりと、とても優しかったです。ここを利用されているメンバーの方々も、一生懸命と業務に取り組まれていたり、スタッフの方々とも和気あいあいとされていました。私は、あまり交流をもちませんでしたが、とても話しやすい環境だと思いました。

りぼん便りの編集業務を行う中で、「障害者とされる方々」の活動内容を知る機会がありました。より住みやすい国にしていこうと意欲的に取り組んでいる姿に、心打たれました。私が、この業務に携わらなかったら知り得ない現実でした。りぼん便りは、私の、障害者に対するイメージに良い影響を与えたと思います。

リボーンプロジェクトは、障害者福祉センター内にあり、通路では、必ず障害者である方々と出会います。今までにない経験でしたが、仕事やリハビリなどに一生懸命に取り組まれておりました。

私は、就労移行支援事業所を利用することが可能な期間の 2 年間を使い果たし、なんとか就職先を見つける事ができました。リボーンプロジェクトはもちろんですが、ハローワークの方々にも、ご支援していただけたお陰です。私の場合は、リボーンプロジェクトを税金で利用することができました。ですので、この 2 年間の訓練をムダにしないように、仕事を続け、社会人として、税金を納めるなどで恩返しができるように、と思っております。

（K.S）

## 就労支援センター北わくわくかん

登録者（2019年 10 月末）881 名
就職者 ６名（事務 3、清掃 1、 警備 1、滅菌消毒 1）

## 先月 ご協力いただいた皆様

東京都労働局・東京都精神保健福祉民間団体協議会・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ハローワーク王子・池袋・飯田橋・上野・東京障害者職業センター・東京しごと財団・東京都立精神保健福祉センター・東京都立王子特別支援学校・北区社会福祉協議会・北区教育委員会・津久井やまゆり園事件を考え続ける会・大阪障害者労働センターぐるーぷニュース・企業組合ワーカーズコレクティブキャリー・NPO 法人ゆめ風基金・あしたや共働企画・特定非営利活動法人のらんど・ＮＰＯ法人ソーシャル・クリエイターズ・企業組合あうん・ともっと事業体・シャロームの家・NPO 法人太陽と緑の会・認定ＮＰＯ法人やまぼうし・エルコープ協同組合運動研究会・オレンジコープ等、お世話になりました。

## グループホームわくわくかん

４名定員中２名の方が入居中でしたが、この度新しい入居者が決まり、空室が残り１部屋となりました。俳優の真木よう子さん似の美しい方で、一般就労をしながら、安定した生活を目指します。麗しい彼女を目の前にすると、「この世話人が一体何のお手伝いが出来るのだろう？」と思わずたじろいでしまいます。1 階に入居中の I さんにお会いされた際、I さんの人懐っこさを感じた彼女は「一緒に炬燵でミカン食べながら仲良くなりたい。」とおっしゃっていました。新しい仲間は増え、今年の冬は温かいホームになりそうな予感です。あわただしい師走はもう目の前です。

## ▼編集後記▼

女優沢尻エリカの薬物使用で世間はサンデージャポンに見られるように騒がしいが、依存症克服と回復に向けての取組みは、偏見をはねのけて地道に進められている。「歌おう、回復の歌を、依存症、心の病からの回復」を掲げた 11 月 10 日の「リカバリー・パレート回復の祭典 in 東京」の模様を 7 面で紹介をしているが、１０年前に比べて「社会の無理解が理解へと変わってきている」ことも確かだ。『福祉新聞』によれば、天皇即位の「祝賀行列の儀」の警備と重なり開催が危ぶまれたが、コースを変更して実施された。しかし認定 NPO 法人児童虐待防止全国ネット主催の銀座での「第 17 回子どもの虐待死を悼み命を讃える市民集会」は交通規制により中止になっている。

発行所 郵便番号 157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 100 円（会費に含む）